



内容目次

- ・くしゃみの雑学
- ・千葉県新型インフルエンザ等対策病院
実動訓練のお知らせ



発行元 地方独立行政法人さんむ医療センター
広報編集委員会
<http://www.sanmu-mc.jp/>

くしゃみの雑学

くしゃみの機能は、体温をあげる機能と吸い込んだ異物を対外に排出する機能とされています。

くしゃみの際には、目を瞑ってしまい、上半身全体の筋肉を激しく運動させる反射で、激しい筋肉収縮に伴い、肋骨骨折や、腰痛の悪化、ぎっくり腰になることもあります。

くしゃみにより排出される唾の飛沫は1～3m程度といわれており、その初速は時速300km以上という数字を出している研究者もいます。この飛沫をまき散らすことにより、周囲の人に風邪やインフルエンザを広める危険性があります。とっさに、くしゃみが出そうになった時に手で口を覆うと指の間から飛沫物は飛んでいきます、また手に付いた飛沫物は、すぐに手をしっかり洗わないと触った場所に病原体をばらまくことになります。

近年、咳エチケットとして色々なところで見るポスターに、肘を曲げ袖で口、鼻を覆う方法が推奨されています。

この方法ですと、くしゃみで出る飛沫は前には飛ばず、袖にほとんどが付着し、一部が上下に飛びますが直線方向への勢いが弱くなる為、手で覆うよりは減少します。

しかし、袖が汚れてしまいますので、咳、くしゃみが出る時には、マスクをしましょう。



放射線課 木村

千葉県新型インフルエンザ等対策病院実動訓練のお知らせ

概要

日時：平成30年11月29日 午後2時～午後5時30分

場所：さんむ医療センター1階（玄関・救急外来等）

主催：千葉県・さんむ医療センター

訓練の内容について

千葉県とさんむ医療センターは、万一の新型インフルエンザの発生と流行を想定して、千葉県内感染期（流行期）における総合病院での対応・対策を実証することを目的として、実動訓練を行います。新型インフルエンザという怖いというイメージが先行してしまっていますが、最近では平成21年に発生し、インフルエンザという病気の特徴として、10～数十年ごとに性質を変え大流行するということがわかっています。不要に恐れるのではなく、対策をたてて流行に備えることが重要ですので、さんむ医療センターは千葉県と協働して訓練を実施する事に至りました。

当日の実際の訓練参加者は30名程度ですが、ほかに多数の医療関係の見学者が来院します。特に、午後3時30分から午後4時30分の1時間は実際に模擬患者が玄関から救急外来へ移動・診察を行います。また、実際の流行時を想定し1階の一部で通行を制限する予定です。このため、診察や面会目的の来院者の方にはご不便をおかけすることになりますが、事情をご理解いただきご協力をお願いいたします。

（通常の診療・救急受診の制限はありません。）

また、制限区域等については当日の掲示物をご確認ください。）

